

大原のチョウ（ルートセンサスの結果報告）

1. はじめに

大原の自然を知り、その変化を調べるために、2023 年からチョウとトンボのルートセンサス調査を始めて 2 年目になる。ここではチョウについてのルートセンサスの結果を報告する。

2. ルートセンサスの方法

ルートセンサスとは調査対象となる場所に固定した調査ルートを設定し、定期的に調査対象の生き物を調査・記録するものである。

調査ルートを図 1 のように設定し、原則として月 2 回歩き、発見できたチョウとトンボの種類数と個体数を記録していった。2023 年は 1 回目の調査が 5 月 17 日、最終回が 11 月 4 日で、その間 8 回の調査を行った。2024 年は 1 回目の調査が 4 月 10 日、最終回が 11 月 13 日で、その間 15 回の調査を行った。



図 1 ルートセンサスのコース（緑色の線。下の赤丸が始点、上の赤丸が終点）

3. チョウ類調査結果

2023 年の調査結果を表 1 に、2024 年の調査結果を表 2 に示した。

記録した種類数と個体数は、2023 年は 44 種 635 頭、2024 年は 42 種 1591 頭だった。種類は春から初夏にかけて増加し、初夏には減少した。秋に近づくにつれて再び増加し、そして減少していった。

出現時期についてみると、モンキチョウやツバメシジミ、ルリシジミなどのように春に多い種とウラナミシジミやチャバネセセリイチモンジセセリのように秋に多い種があった。一方、周年を通して見られる種でも、モンシロチョウのように春には多いが夏以降は個体数を減らす種や、ヤマトシジミやキタキチョウのように秋に個体数を増やす種も見られた。

生息環境では草地や草原に生息する種が多く、樹林周辺に生息する種は少なかった。これはルートセンサスのコースに樹林やその周辺環境が少ないことに起因するのかもしれない。

特記すべき種として次の 3 種を挙げておきたい。

- ・ジャコウアゲハ：食草のウマノスズクサの分布が大原では局所的で恒常的に見られる種ではない。飛来個体が一時的に発生するとも考えられるので発生状況を見ていく必要がある（図 2）。
- ・キマダラルリツバメ：京都府の準絶滅危惧種に指定されている種で、大原では以前から数か所で生息が確認されていたが、今回ルートセンサスのコースにある桜並木で生息が確認できたことは非常に喜ばしい。生息状況を詳しく調べて保護対策を考えたい（図 3）。
- ・ゴイシシジミ：ササやタケにつくアブラムシに依存しているチョウで生息地域がたいへん局地的である。このような種がまだ大原に生息していることが確認できたことで、大原の昆虫の多様性を感じることができた。各種の開発で生息地が失われる可能性が大きいと思われるので、大原での分布について調べていきたい（図 4）。

表1 2023 年 大原ルートセンサスの結果

調査日	5月17日	6月7日	7月4日	7月19日	8月16日	9月13日	10月11日	11月4日	計
ジャコウアゲハ	1								1
アオスジアゲハ	1	1			1				3
クロアゲハ					2				2
アゲハ		1				2			3
キアゲハ		1		1	1				3
ナガサキアゲハ						1			1
モンキアゲハ		1			2				3
オナガアゲハ					1				1
モンシロチョウ	12	20	7	2	1	6	7	13	68
キタキチョウ	1	2	2	1	5	12	20	13	56
モンキチョウ	6	6		5				1	18
ウラギンシジミ	1				2	1	2	3	9
ゴイシシジミ					1				1
ムラサキシジミ					1	2			3
ウラゴマダラシジミ		1							1
ベニシジミ	1		11	2		1	1	4	20
ウラナミシジミ							3	1	4
ヤマトシジミ	9		1	1	7	90	36	64	208
ツバメシジミ		1	5						6
ルリシジミ		11		1		1			13
アサギマダラ							1		1
テングチョウ	1	1				1			3
キタテハ		6		1		3	5	11	26
アカタテハ						1	4		5
ミドリヒョウモン							1		1
ウラギンヒョウモン		1					1		2
ツマグロヒョウモン	2			1	1	2	9	6	21
コムシジ						2			2
ホシミスジ			1						1
アサマイチモンジ		2	1		1				4
サトキマダラヒカゲ					1				1
ヒメウラナミジャノメ	15	13	23	12	10	29	2	1	105
ヒメジャノメ						1			1
クロコノマチョウ			1		1			2	4
ヒカゲチョウ		5	1		1				7
クロヒカゲ							1		1
アオバセセリ					1				1
ダイミョウセセリ	1	1				2			4
クロセセリ							1		1
ヒメキマダラセセリ	2				5	2			9
キマダラセセリ					1				1
チャバネセセリ						1	1	1	3
オオチャバネセセリ			1	2	1	1			5
イチモンジセセリ					1		1		2
個体数	53	74	54	29	48	161	96	120	635
種類数	13	17	11	11	22	20	17	12	44



図2 ジャコウアゲハ 110515



図3 ゴイシシジミ 230706

図4 キマダラルリツバメ
230628

表2 2024 年 大原ルートセンサスの結果

調査日	4月10日	4月25日	5月8日	5月22日	6月12日	6月26日	7月10日	7月24日	8月14日	8月28日	9月11日	9月25日	10月9日	10月30日	11月13日	計
アオスジアゲハ			1	1												2
クロアゲハ			3	1								1				5
アゲハ		1	1	1	1											4
キアゲハ					1							4				5
カラスアゲハ				2												2
オナガアゲハ			1													1
モンシロチョウ	24	22	5	30	74	34	13	2	2		1	1	5	6	3	222
ツマキチョウ		1														1
キタキチョウ	3	2		1	3	3	1	10	11	13	16	15	18	18	8	122
モンキチョウ	1	2	14	5	13	10					2	4			1	52
ウラギンシジミ					3	1		2	1	1		3			3	14
ムラサキシジミ					2		1	2		1	2					8
トラフシジミ			1													1
ウラゴマダラシジミ					1											1
キマダラルリツバメ						1										1
ベニシジミ		5	8		3	10	3	3	1	2	2	1		1	6	45
ウラナミシジミ										6	1	12	11	7	5	42
ヤマトシジミ		2	25	3		33	6	36	14	38	77	47	82	101	86	550
ツバメシジミ		1				12	5	4	1	2	4	9	7			45
ルリシジミ	1	2			9	2		2			1					17
テングチョウ		1		2	4		1									8
キタテハ	2	3	1	1	1	1		4			1	2	1	18	9	44
アカタテハ		2			3								1			6
ヒメアカタテハ												2				2
ミドリヒョウモン					1											1
ツマグロヒョウモン									1		2	9	1	5	2	20
コムシジ			1						1		1	1	1			5
ミスジチョウ					1											1
イチモンジチョウ				4	3											7
アサマイチモンジ					2		1			3						6
サトキマダラヒカゲ				5	6						1					12
ヒメウラナミジャノメ		6	67	25	11	5	35	19	12	42	28	4		1		255
ヒメジャノメ					1						1					2
クロコノマチョウ		1	1					1		1		2	6	3		15
ヒカゲチョウ					8	3			3		5					19
ダイミョウセセリ			4		1					3						8
クロセセリ												2				2
ヒメキマダラセセリ				3						1						4
キマダラセセリ										6	1					7
チャバネセセリ									1	1	1	8	3	1	2	17
オオチャバネセセリ								1				2				3
イチモンジセセリ										6		1				7
個体数	31	51	133	84	152	115	67	85	48	126	147	130	136	161	125	1591
種類数	5	14	14	14	22	12	10	11	11	15	18	20	11	10	10	42